

## 第5回専門医資格認定試験の試験問題について

専門医制度委員会  
委員長 青山 英康

平成9年8月23・24日に第5回専門医資格認定試験が実施されました。今後の制度改善と受験者の便に供するため、委員会は従来どおり、この試験で用いられた試験問題を公表することといたしました。試験方法は、昨年と同じです。以下に筆記試験、口頭試験の全問題文を掲載いたします。

### 1. 筆記試験

A問題. 12問のすべてについて簡潔に回答せよ。

1. 産業保健推進センターと地域産業保健センターの役割の異同について説明せよ。
2. 定期健康診断を外部の機関に依頼している事業場で有効な事後措置を行うための方策を説明せよ。
3. トルエン曝露作業者の尿中馬尿酸濃度が分布3であった。とるべき措置を説明せよ。
4. 企業内における健康教育の目的について説明せよ。
5. 労働災害の統計に利用される指標を列記せよ。
6. 夜勤労働者の労働負担を評価する方法を説明せよ。
7. パーソナルコンピュータの使用頻度の高い事務作業職場を巡視する際のチェックポイントを説明せよ。
8. 労働衛生保護具を4つあげ、その使用上の留意事項を説明せよ。
9. マンホール内部の清掃作業を行う際の留意点を説明せよ。
10. 有機溶剤取扱い職場の作業環境の評価法について説明せよ。
11. 騒音性聴力障害の進展とオーゾグラムの特徴を説明せよ。
12. 職場の有害物による健康障害を予防するための我が国の法規を4つあげよ。

B問題. 5問中3問を選び回答せよ。

1. 職場における「気分障害」の重要性とその対策について説明せよ。
2. 化学物質等のMSDS(製品安全データシート)に必要な記載項目を列記せよ。

3. 職業アレルギーを予防するための労働衛生上の対策を説明せよ。
4. 冷凍倉庫における低温作業者の労働衛生対策を説明せよ。
5. 従業員 100 人の製造業で、はじめて東南アジアに社員2名を1年間派遣することになった。安全衛生委員会で討議すべき事項を説明せよ。

C問題. 以下の4問中2問を選び詳述せよ。

1. 高血圧と生活習慣との関係を職場の調査から明らかにしたい。疫学的な調査手順を具体的に説明せよ。
2. アスベストによる健康障害の発生職場、病態及び健康管理について説明せよ。
3. 約 2,000 人規模の事業場を想定して、THP をはじめて実施する際に考慮すべき課題とその方策を説明せよ。
4. 量・反応関係(Dose-response relationship)及び量・影響関係(Dose-effect relationship)について、鉛中毒を例に説明せよ。

## 2. 口頭試験

口頭試験では、個々の知識と関連領域の知識との整合性や、知識の総合性、経験の程度、問題解決能力、総合的評価能力、企画力、対象の観察力、指導性、協調性等を見ることを目的とした。口頭試験A-1・A-2では、6名を1組とするグループ単位で、口頭試験Bでは、4名を1組とする小グループ単位で発表と討議が実施された。

### 【A-1問題】

1. 産業医が職場巡視を行う場合に注意すべき点を列挙して下さい。
2. 平成8年の労働安全衛生法改正後の健康診断個人票の記載項目の変更点について意見を述べて下さい。
3. 海外赴任前の健康診断の結果GOT120、GPT136、 $\gamma$ -GTP162との成績がえられた。産業医として判定をするためにどのような対応をしたら良いか。事後措置を含めて述べて下さい。
4. 因果関係の有無を判定する基準について知るところを述べて下さい。

5. 中高年の健康管理上の留意点、特に職場配置上考慮すべき点について述べて下さい。
6. 許容濃度と管理濃度、それぞれの意義について、違いを明確にして述べて下さい。
7. 人材派遣について知るところを述べて下さい。
8. 長距離運輸業の運転手の健康管理上の問題点を述べて下さい。
9. 頸肩腕障害(上肢作業による障害)の予防について述べて下さい。
10. 「職場における腰痛予防対策指針」が平成6年9月に公表されてから早2年が経過した。当方針の成立の背景と対策の要点を述べて下さい。また、産業医として職場で実際に経験したこと、あるいは具体的な対策事例があれば、それらについて述べ、問題点や改善点について述べて下さい。
11. 近年、事務系事業場において、VDTにかかわりのある業務は増加の一途をたどっている。VDTによる健康問題をあげ、VDTに関係する業務について、それぞれに対し適切な健康管理施策を述べて下さい。
12. 100人が仕事をしている部屋から、定期健康診断において肺結核の従業員が発見された。喀痰検査で陽性(ガフキー4号)であった。産業医としてとるべき対策と法的なものも含めたその根拠について述べて下さい。

#### 【A-2問題】

1. 「男女雇用機会均等法」と関連法の改正が議論されています。その中心の問題点は女子労働者の深夜業の禁止措置、すなわち「女子保護規定」の原則撤廃である。このことは、今後の職場における健康管理において大きな課題となると考えられる。社会問題上の課題も踏まえて論議をつくして下さい。
2. 公衆衛生審議会(厚相諮問機関)は昨年末、これまで習慣的に使われてきた「成人病」という名称を、「生活習慣病」と替えるよう意見書をまとめ、提出した。これを受け、厚生省では名称の変更とその具体的対策の検討に入った。このことは職場の健康管理でも少なからず影響を与えるものと考えられるが、今後産業医として保健指導、

健康指導を進めるに当たって、どのような点に配慮しなければならないかを議論して下さい。

## 【B問題】

1. 健康診断結果等により、所謂、RISK FACTOR として、高血圧、耐糖能異常、高脂血症、肥満(内因性)etc.が重複する傾向があるものが増えつつある。ある集団総数は約 3,500 人、平均年齢 37.8 歳、事務、技術系の管理職が 23%、残りは技能系である。この集団に対する健康教育、THP活動等を組織的に推進したい。あなたはこの企業の産業医として如何に、何処に、如何なるタイミングをもって、PRし、アクションをおこしてゆくか。総括安衛管理者、経営トップ、労組、健保組合に対するプレゼンテーションを試みて下さい。
2. この企業はある製造業の設計・開発部門で、集団人数は約 4,500 人である。最近、リストラ、業績低下等の企業を取り巻く環境は厳しいものがある。また、メンタル面から休職者が増えつつある。従って、産業医への職場からのメンタル面の相談内容も、多岐に亘っている。担当役員も、職場のモラル低下も含め、対策につき要望があるようです。この事業場は一般工場と異なり、高学歴者が多く、作業時間もばらばらである。あなたはこの事業場の産業医として、総合的メンタルヘルスケア対策を樹てて下さい。また、その効果を予想して下さい。
3. 従業員 3,000 人の新興の小売業で、4県にまたがる 20 カ所の事業場をもつ。この企業において専属産業医を委嘱された。全く新たに産業保健サービスを行う立場として、どのような活動を行うべきか、その予算はどの程度かなど、根拠を示しながらプランを提示して下さい。
4. 海外に製造販売拠点をもつ企業がある。国際化の中で、産業医の果たすべき職務が拡大しており、これに対応した研修が必要ではないかとの打診が経営層からあった。専属産業医ための研修内容を整理して下さい。